学びの姿勢(教育課程編成・実施の方針)　報告書

Ⅰ．学びの姿勢(教育課程編成・実施の方針)振り返り

1．分析対象数は、1 年生が 71 名(79.8%)、2 年生が 76 名 (84.4%)、3 年生が 75 名 (88.2%)、4 年生が 70 名 (85.4%) であった。

2．全学年を通して高得点の項目は、協力・協働 (グループワークや実習などで他メンバーや教員、指導者と良好な関係を築くことができる) (4.0)、臨地実習 (臨地実習は何故行うか知っている) (3.9)、授業方法の種類(科目の授業方法には講義、演習、実習があることを知っている)(3.7)であった (図 2)。これらは例年と同様の傾向となっており、本学科の学びの姿勢の特徴と推察される。

3．低得点の項目は、社会貢献 (ボランティアなどを行っている) (2.5)、資格取得(2.6)であった。前者については、特に 1 年生と 3 年生で低くなっており、入学初年度であること、臨地実習が本格化する学年であることが影響していたと推察される。(図 2)。

4．全体的に学年が上がる毎に学びの姿勢が向上する傾向にあった。授業方法の種類、協力・協働においては高い傾向がみられ、学生自身が授業に関心を寄せ、意識を高めていたものと推察される。また、実習等限られた対面の機会に、協力・協働の重要性について修得したと考えられる。

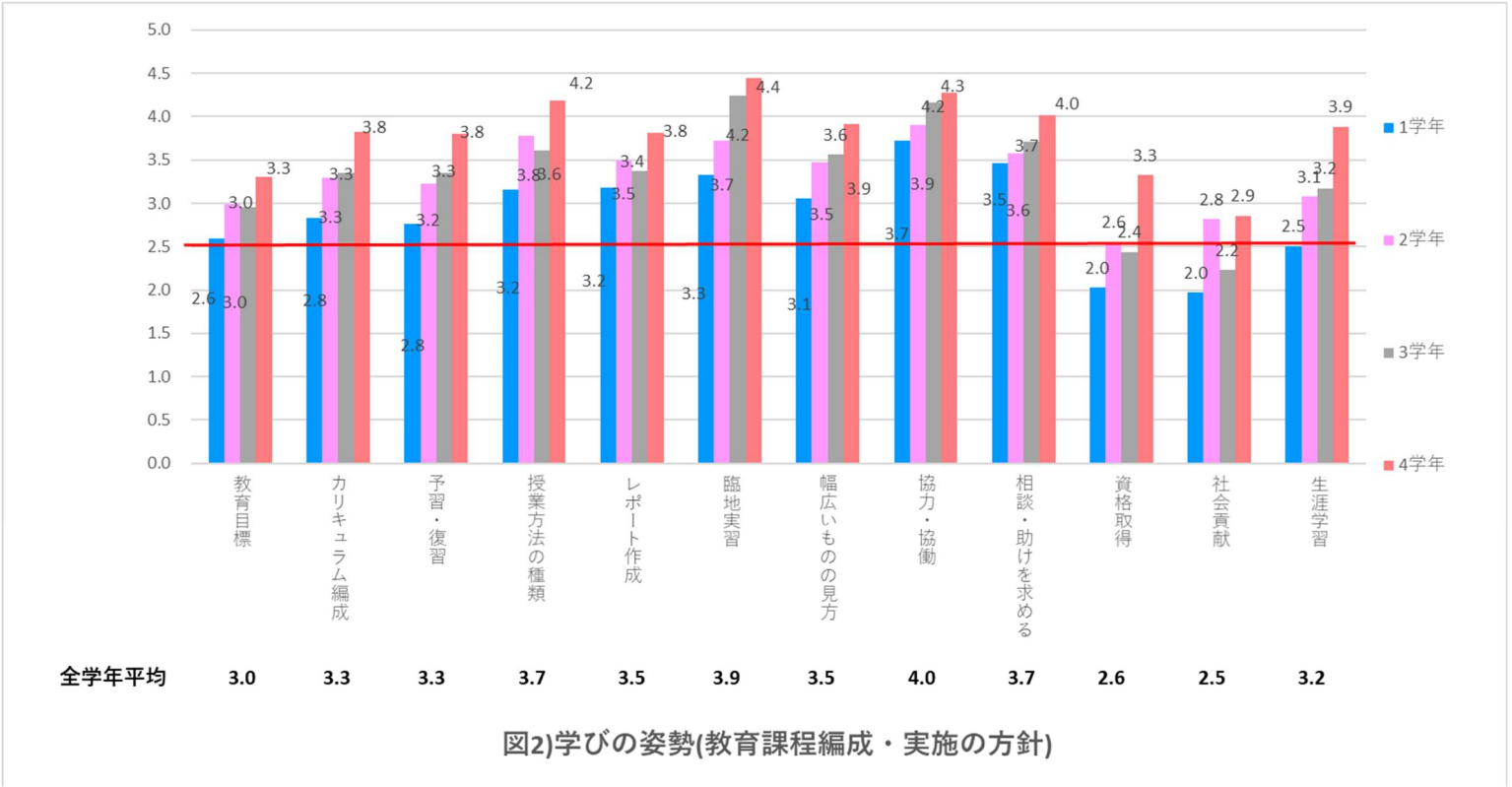

図2)学びの姿勢(教育課程編成・実施の方針)